

むつ み ばし
六見橋

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：岐阜県下呂市 竣工年：昭和6年 管理者：岐阜県下呂土木事務所
認定理由：鉄道（高山線）の開通後の昭和6年に鉄橋として架け替えられた六見橋は、近代温泉街下呂を実質的かつ象徴的に牽引した橋である。

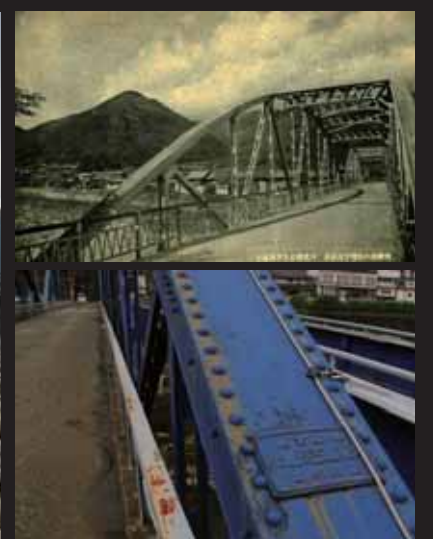
平成22年度登録



戦前の下呂町地図 下呂町市街に飛騨川を渡る道路橋は六見橋のみ。



(上) 六見橋と下呂富士 (中) 飛騨川河原より



(右上) 戦前の絵葉書「六見橋より下呂富士」 (右下) 銘板「株式会社大阪鉄工所制作昭和六年」

三大名泉の一つと云われる下呂温泉であるが、温泉街が形成するのは近代技術によって湯壺が安定する大正時代以降である。その頃、地元篤志家の寄附などにより、下呂を二分する飛騨川に吊橋「六見橋」が架けられる。昭和5年に国鉄高山線が岐阜・名古屋方面から下呂まで開通し、これが運ぶ旅客は下呂に大きなインパクトを与えた。駅のできた飛騨川右岸から、温泉街が形成される左岸へ渡る六見橋は、直ちに県の補助を受けた町の事業として架け替えられ、町へのアプローチが整備された。請け負った大阪鉄鋼所による橋の設計は、曲線を用いた弓弦状アーチであり、今では現存する珍しい例になっている。六見橋の名称は、「附近六箇所の景致を眺められる」ことによる。得られる景致の一つ、「下呂富士」の姿を背景に、六見橋の姿は温泉街下呂を彩るイメージの一つとなり、絵葉書・小学校唱歌・小唄などのモチーフともなる名所となった。



戦前の絵葉書セット 背景に六見橋と下呂富士